

令和3年度 第2回 佐世保市図書館協議会 会議録

1. 日 時 令4年3月24日(木) 午後4時～午後6時
2. 場 所 佐世保市立図書館 4階 A会議室
3. 出席者 ○佐世保市図書館協議会委員 (定数5名)(出席5名)
- ・学校教育関係者 末竹 実
 - ・社会教育関係者 喜多 祥浩
 - ・社会教育関係者 松永 美智子
 - ・家庭教育関係者 松山 裕美香
 - ・学識経験者 中島 金太郎
- 事務局・説明者(出席3名)
- ・図書館長 中尾 香代子
 - ・館長補佐兼図書第一係長 谷口 進太郎
 - ・図書第二係長 合満 佐和子

4. 会次第

(1) 開会

(2) 議題

- ①令和4年度事業計画について
- ②令和4年度予算について
- ③令和3年度の事業実施状況について
- ④その他

(3) 閉会

5. 議事(要点筆記)

(1) 開会

(2) 議題

①令和4年度事業計画について

《 説 明 》

～事務局から資料に基づき、説明を行った。～

【令和4年度事業計画】

昨今のコロナ禍の状況においては、電子書籍やオンラインでのイベント開催など非来館型のサービスの拡充が進み、従来の来館を前提とするサービスのあり方の見直しが求められている。

そのようなことから、令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、安全・安心でより魅力ある図書館サービスの提供に努めるとともに、オンラインでのビブリオバトル、図書館活用講座、読み聞かせ講座等、非来館型のサービスの充実を図る。

子どもの読書活動推進については、「第三次佐世保市子ども読書プラン」に基づき、子どもたちが年齢に応じた本と触れ合うことによって、本の楽しさを発見し、身近に読書に親しめるよう、また、子どもたちが主体的に情報を選択し、自分の考えをまとめ、人に伝えることができるよう、ブックスタート、おはなし会、学校等支援、図書館を使った調べる学習コンクール等に取り組む。

令和3年度からスタートした電子書籍サービスについては、新たに電子雑誌のコンテンツを導入し、サービスの更なる魅力向上に努める。

また、令和4年4月から中央公園がリニューアルオープンし、子どもの屋内遊び場等の供用が開始されるので、親子連れなどの新たな人の流れをうまく取り込めるよう、魅力あるサービスの充実を図るとともにPRに努め、利用促進を図る。

【主要事業】

・ 一般室

事業名	開催時期等	目的・内容
ビブリオバトル（オンライン開催含む。）	年4回	本を通じた世代間交流を目的に、ビブリオバトルを開催する。
上映会	週2回	多様な学習機会の提供と、市民の余暇活動の支援として、上映会を開催する。
特別上映会	年1~3回	通常の上映会では取り扱っていない、音楽作品・英語作品・字幕（バリアフリー）作品の上映を通じ、バリアフリーサービスや多言語サービスを行う。
図書館活用講座	年1回	利用者が自らの力で課題を解決できる力を身につけることや、情報リテラシーの向上を目的に、図書館活用講座を開催する。
一般室展示	通年	時事や季節に応じたテーマに沿って資料を展示・紹介する。
特別展示	通年	市役所等との協働展示を行い、施策やイベントのPRを行うとともに資料を展示・紹介する。

・ 児童室

事業名	開催時期等	目的・内容
おはなし会	毎月第1・2・5日曜日	すべての子どもに本の楽しさを手渡すため、乳幼児以上を対象としたおはなし会を開催する。
おたのしみ会	毎月第1日曜日	様々な手法を用いて読書に親しむきっかけを作る、幼児・小学生を対象とした本に関連したイベント。ブックトーク・アニメーション・工作など。
赤ちゃん向けおはなし会 「いないいないばあ」	毎週木曜日	すべての子どもに本の楽しさを手渡すとともに、育児をする保護者の居場所作りを提供する乳児と保護者を対象としたおはなし会。

ブックスタート	4ヶ月健診日	すべての赤ちゃんのまわりで、楽しくあたたかいひとときがもたれることを願い、赤ちゃんに絵本を開く楽しい体験とともに、絵本を手渡すもの。
図書館を使った調べる学習コンクール	7月～11月	小学生による図書館利用の促進と資料を活用する力と探求心・思考力などの向上を図る。(公財)図書館振興財団主催の「調べる学習コンクール」の地区予選となる。
図書館を使った調べる学習講座	開催時期未定	小学生を対象とした調べる学習の基礎を学んでもらうための講座を開催する。また、一般を対象とした講座を開催することで情報リテラシーの向上を図る。
読み聞かせ講座	開催時期未定	子どもの読書にかかわる大人に読書の意義を啓発するため、読み聞かせに関する講座を開催。
読書週間イベント	10月27日～ 11月9日	図書館や本に親しんでもらうためイベントを開催する。おはなし会やゲーム、特別展示等。
クリスマスイベント	12月	来館を促し本に親しんでもらうためのクリスマスイベント。
学校等支援	通年	子どもの読書活動を活性化するため、学校等との連携を図る。授業支援のための資料の貸出・おはなし会・ブックトーク等。
児童展示コーナー	通年	季節や行事等のテーマに合わせた本を展示する。(随時更新)

・郷土資料室

事業名	開催時期等	目的・内容
夏休み郷土学習教室	年1回予定	児童をはじめとした市民に対し、地域の魅力や文化の向上を図るため、郷土史跡の見学や現地解説をとおして、歴史や文化を学習するもの。
児童・生徒の郷土研究発表会	年1回予定	地域魅力等の発信のため、児童等が取り組んだ地域の歴史や文化の学習をとおして得られた結果や感想等の発表機会を提供するもの。

郷土研究所の公開発表会	年1回予定	郷土の歴史及び文化への理解を深めるために、図書館が運営する郷土研究所の所員が日頃の研究成果を発表するもの。
市民ギャラリー展示会	通年	芸術文化活動等の生涯学習推進に寄与するため、図書館で発表の場を提供するもの。
郷土展示コーナー	通年	佐世保に関するテーマを決め、所蔵資料の展示を行う。

・移動図書館

事業名	開催時期等	目的・内容
はまゆう号巡回	通年	遠隔地にお住まいの方や、身体の障がい、高齢その他の事情により図書館を訪れることのできない方に図書館サービスを提供することを目的として、市内の個人貸出ステーション31箇所、団体貸出ステーション48箇所を巡回するもの。

・共通

事業名	開催時期等	目的・内容
第6回図書館まつり	年1回開催予定	図書館活動のPRと利用の促進を目的として、おすすめ本の紹介、図書館に関する展示、スタンプラリー、上映会等を実施するもの。
リサイクル市	年1~2回予定	本に親しんでいただくとともに、資源の有効活用を図ることを目的として、図書館の除籍資料を無償でお譲りするもの。
図書館探検ツアー	年1回	子どもたちの図書館への親しみや関心を更に高めることを目的として、普段、利用者が立ち入ることができない閉架書庫や非常時の連絡通路等の見学(探検)ツアーを実施するもの。
図書館職員のおすすめ本の紹介(階段展示)	通年	図書館職員がおすすめする本の表紙と紹介文を階段に掲示するもの。(毎月更新)

・西九州させば広域都市圏事業

事業名	開催時期等	目的・内容
利用者登録・貸出	通年	利用者の利便性向上を目的として、圏域の図書館において、利用者登録・貸出しを行うもの。
配送サービス	通年	利用者の利便性向上を目的として、圏域の図書館において、相互貸借資料の配送と、それぞれの地元図書館で返却された資料の配送を行うもの。
研修・講習会の共同開催	年 1～2 回予定	図書館サービスの向上を目的として、圏域の図書館において、職員やボランティア、利用者等を対象とした研修・講習会を開催する。

《 質 疑 》

会長：ただいまの説明に対し質問、意見等があればお願いしたい。

委員：資料 1 頁に指標と目標値の記載があり、令和 4 年度は年間利用者数 374,000 人を目標値としている。この利用者数というのは、来館者数と捉えてよいのか。

事務局：そのとおり。来館者数である。

委員：目標値を高く設定することは必要だと思うが、コロナ禍で、やりたくてもできないといった状況があり、現状は実績と目標値がかなり乖離している。この点いかがお考えか。

事務局：図書館の運営方針において、4 年間の目標値として掲げさせていただいたものであるが、委員ご指摘のとおり、コロナ禍で乖離が生じてしまったと考えている。

委員：以前も意見として言わせていただいたことがあるが、非来館型のサービスにも取り組んでいくとのことであれば、来館者数だけをカウントせずに、電子書籍にアクセスした人の数とか、ウェブで検索した人の数なども利用者数としてカウントされてはいかかかと思う。技術的に難しいところがあるのか。

事務局：電子書籍については、閲覧件数やログイン件数を毎月カウントしているので、対応できると思う。ウェブでの検索件数や予約件数のデータもあるので、加えることはできる。

委員：非来館型サービスという点から言うと、利用者数としてカウントされるべきと考える。コロナ禍で来館者数は減ったかもしれないが、電子書籍の利用者などを加えて、実はこれだけの人が利用しているということを図書館として発信されてもいいのではないかと思う。是非、アクセス数を利用者数に入れて欲しい。

事務局：補足すると、図書館運営方針の指標は、上位計画である佐世保市総合計画の K P I（重要業績評価指数）の一部を構成している。総合計画の K P I は、「生涯学習拠点施設の利用者数」として、図書館、コミュニティセンター、総合教育センター、少年科学館の年間利用者数を合算して計上している。図書館の年間利用者数が総合計画の K P I に包含され見えなくなったため、この運営方針に掲げて公表し、進捗管理するかたちをとらせていただいた。

総合計画はコロナ前に策定されたものであり、図書館に限らず、公園やスポーツ施設、クルーズ船を含む観光事業などは全てコロナの影響を受けている。令和 6 年度から、総合計画の後

期基本計画がスタートすることになっており、K P Iについても、コロナ禍やD Xの推進を受け、全庁的に見直しが行われると考えている。この4年間は今の指標と目標値でいかせていただき、令和6年度の後期基本計画のスタートまでに検討を重ね、新たな指標を設定したいと考えている。

委員：資料3頁の学校等支援についておたずねする。これは、子どもの読書活動を活性化するため学校等との連携を図るといったものであるが、現状、どういったことをされているのか。また、令和4年度は具体的にどういった計画があるのか、おたずねする。

事務局：学校等支援としては、学校図書室の環境整備、ブックトーク、おはなし会、運営相談、選書依頼、図書の配送、窓口での団体貸出等を行っている。ブックトークやおはなし会については、依頼があった学校に司書が出向いて行っている。運営相談については、学校図書室の司書の方から相談いただいて対応している。学校からの選書依頼が最も多く、学校の授業で使用するいろんなテーマについて選書依頼がある。児童室の担当者がテーマに沿った本を選書して学校に貸出をしており、令和2年度の実績で294件、5,546冊の貸出を行った。団体貸出としては幼稚園、保育園、学童クラブ等から貸出の依頼がある。その他にも、学校司書の連絡会や学校図書ボランティアのネットワークなどに図書館司書が参加して、意見交換等をさせていただいている。

委員：対象としている学校の範囲はどこまでか。

事務局：中学校まで対応している。

委員：小学校・中学校合わせて、年間の選書依頼件数が294件というのは少ないと感じる。もう少し学校司書にPRしていけば利用も増えるのではないかと思う。市立図書館が学校司書を支援するセンター的な機能を果たしてくれたらいいのにとと思う。

会長：他にないか。

委員：コロナの影響はやはり大きいのか。

事務局：学校等支援については、あまり影響を受けていないと思うが、学校からの図書館見学の受け入れについては減っている。学校からの選書依頼、図書の貸出依頼等については、コロナの影響をあまり受けていないと考えている。

委員：対応する資料の補充はされているのか。佐世保でいうと、陶器関係や海に関係する本が多く必要とされると思うので、維持していくためには、資料費が必要となると思う。

委員：読書週間イベントについて、来館者に対してのイベントとなっているので、これを非来館型のイベントとして考えてみると、何かしらの仕掛けができるのではないかと思う。先ほどの説明で、図書館まつりのときに図書館職員で本の帯を作成する話をされていたが、子どもたちに自分の好きな本の帯を作って図書館に送っていただき、グランプリを決めるようなことをしてみると、非来館型のイベントとして面白いのではないかと思う。

また、読み聞かせ講座について、今、コロナ禍で読み聞かせを中止している学校が多いなかで、読み聞かせの指導をしますといった講座に果たして人が来るのかなと思う。読み方の指導も有難いが、本の選び方のポイントを教えてくれる講座があるのも有難いと思う。

事務局：色々なご意見をいただき有難い。非来館型サービスについては、今後考えていく必要があるもので、委員の皆様のご意見を取り入れていきたいと考えている。

会長：他にないか。

委員：学校等支援の話に戻るが、学校からの選書依頼について、ウェブでできる状況にあるのか。本の検索をウェブ上でできるようになれば、あらかじめ学校で借りたい本を探すこともできると思うが、いかがか。

事務局：図書館のHPから本の検索ができるので、学校によっては、検索してリストを作成し依頼されるところもある。

委員：本の内容まで見ることができるのか。

事務局：内容までは見ることができない。

委員：学習が同じ時期に重なって、例えば、A校・B校・C校で同じような本を借りたいが図書の数がないような場合がある。先ほど説明のあった電子雑誌は同時に20人まで閲覧可能とされている。私個人は、子どもたちには本はやはり実物を使わせたいと考えているが、学習でどうしても必要な場合は、電子書籍が利用できたら助かるのと思う。

委員：私は以前、練馬区の図書館で働いていたことがあるが、同じテーマの本が200冊くらいあった。学習時期が一緒なのでどうしてもかぶってしまうので、一般の貸出用とは別に、学校用の本のセットが複数あれば便利だと思う。

委員：高齢者向けのイベントはないのか。

事務局：図書館は、生涯学習施設として、乳幼児から高齢者まで全ての年齢の方を対象としている。

委員：私はコーラスの指導をしているが、参加されている方はほとんど高齢者である。コーラスでは、よくコミュニティセンターを使わせていただいております、コミュニティセンターにも図書室や図書コーナーがあるが、果たしてどれくらいの人が利用しているのか。小学生・中学生についての話はよく聞くが、年齢の高い方はどのような状況になっているのか。

委員：はまゆう号の巡回サービスがある。

事務局：年齢別で統計があるが、本の貸出冊数で申し上げますと、令和2年度の実績で、小学校入学前までが約4万6冊、小学生が約12万冊、中学生が約1万6千冊、高校生が約7千冊、それ以外の一般の方が約60万冊、団体が約3万4千冊となっている。高校生以上の一般の方も相当数利用されている。

委員：最も少ないゾーンの中学生・高校生対策について、どうお考えか。

事務局：中学生になると、部活動など、いろいろ忙しくなるので、なかなか利用できない状況になるのだと思う。ヤングアダルトコーナーも充実させて、利用拡大を図りたいと考えている。電子書籍サービスも始めているので、コンテンツを充実させて、来館せずとも読書ができる環境を整えたいと考えている。

また、3階の講座室を学習室として開放しており、土日は多くの中高生が、朝早くから来て利用されているが、残念ながら本の貸出までつながっていない状況となっている。

委員：高校生に話を聞いてみたことがあるが、図書館に近いところに住んでいる人はよく利用しており、図書館から遠い人はなかなか足を運ばない状況にあるとのことだった。

委員：学校等支援は中学校までとの説明を受けたが、高校と連携して利用者を増やすといった取組みはできないのか。

事務局：今のところ高校とは連携していない。どういったかたちで連携をとれるのかということも含めて、今後の検討課題とさせていただきたい。

会長：他にないか。

委員：私から3点ほど。まず、資料2頁のおたのしみ会で、幼児に向けて様々な手法を用いて読書に親しみきっかけをつくとあるが、これは非常に大切なことであると思う。小さい頃に本の読み聞かせをした方が、成長しても本を読む傾向にあると考える。読書にとって、幼年期が一番大切な時期だと思うので、幼稚園や保育園に図書館から出向いていただき、30分程度でもいいので、一緒に取り組めるよう、工夫していただければと思う。

2点目、資料4頁の郷土研究所の公開発表会についてであるが、若手への継承があまり進んで

いない。一つの提案であるが、他県の郷土史の方を連れてきて、他県の事例を参考にできれば、大変いい刺激を受けると思う。佐世保は、村からいきなり市に移行しているので、江戸時代等の資料はほとんどない。佐賀県や大分県などのように、昔のことを勉強する機会が少ないと思う。他県の取り組み方を学ぶのもいいのではないかと感じた。

最後に3点目、資料1頁に令和4年4月から中央公園がリニューアルオープンし、親子連れなどの新たな人の流れをうまく取り込めるようにと記載があるが、そのための施策は資料のどこかに記載されているのか。

事務局：それについては、最後の報告事項のなかで説明をさせていただきたい。

委員：新たな中央公園が人を集めてくれるので、是非、図書館に寄ってもらうような仕掛けに取り組んで欲しい。そして、一度足を運んでいただいた方に対し、魅力ある図書館であることを印象づけるような取り組みが必要と考える。図書館は、利用する人としていない人がはっきり分かれる施設であると思う。私は、図書館は知的なつながりを育む拠点だと思っているので、足を運んでもらうための工夫をして欲しい。

事務局：いろいろとご意見をいただき有難い。小さい頃から本に親しんでもらえるような取り組みをすすめていく必要があると考える。郷土研究所についても高齢化が進み、学校の先生にお願いしている研究員についても、定員10名中5名しかいない状況で、思うように活動できていない状況にある。いただいたご意見を参考にして、今後、取り組んでいきたいと考えている。

会長：他になければこれで質疑をとどめる。

②令和4年度予算について

《 説 明 》

～事務局から資料に基づき、令和4年度予算について説明を行った。～

- ・令和4年度予算は、令和3年度予算と比較して864万円減の207,205千円
内訳としては次のとおり。

「施設管理」…図書館の施設管理に要する経費

予算額 69,420千円 令和3年度 79,157千円 差額△9,737千円

「運営」…職員の配置、図書館システム等に要する経費

予算額 94,911千円 令和3年度 95,765千円 差額△854千円

「図書館資料費」…資料購入に要する経費

予算額 40,000千円 令和3年度 38,000千円 差額 2,000千円

「郷土研究」…郷土資料室及び佐世保市郷土研究所の運営に要する経費

予算額 2,874千円 令和3年度 2,923千円 差額△49千円

《 質 疑 》

会長：ただいまの説明に対し質問、意見等があればお願いしたい。

委員：電子雑誌を購入するとなると、現在購入している雑誌は購入しなくなるのか。

事務局：引き続き購入することとし、電子と紙の両方で、生活スタイルに合わせてご利用いただきたいと考えている。

委員：電子図書館の利用について、初期パスワードが生年月日であるということがいろいろと調べるなかでやっとわかった。もともと利用していた図書館HPでも利用者パスワードを設定しており、電子図書館はそれとは別に設定されるものであるということをもっと目に付くように周知して欲しかった。

委員：関連して、図書館HPの蔵書検索のところがわかりづらい。これはお願いになるが、もう少し

HPのレイアウト等を考えていただければと思う。インターネットにつないだときに、どこから検索画面に行くのかといったところが、画面の配色が同じで、わかりにくい。もし、このシステム保守料にシステム改修に係る費用が含まれているのであれば、そういったところも検討していただくと有難い。

事務局：HPの件は、パッケージシステムのため、こちらの思うようにできないところがある。次回のシステムリプレイス時に、その点も含めて検討させていただきたい。

委員：児童室の屋根防水シート改修工事の際、一緒に児童室のガラス製の筒状の明かり取りを撤去できないか。もう役割を終えており、撤去すればそのスペースに本棚を設置できると思うが、いかがか。

事務局：今回の防水シート改修工事の予算に含まれていないので、撤去することはできない。

会長：他にないか。

委員：高齢の方は、パソコンやスマートフォンの操作に不慣れなので、結局、来館してサービスを受けることになるのではないか。

事務局：電子書籍の利用者を年齢別に見てみると、一番多いのが60代、次が50代といったように、若い人よりも利用が多いといった現状にある。60代の方も、ネットでショッピング等をされているので、電子書籍にも抵抗がないのではないかと思う。

委員：男性と女性ではどちらが多いか。

事務局：手元に資料がないので、今は答えることができない。

事務局：補足であるが、電子書籍は、音声読み上げ機能が付いているので、例えば家事をしながらでも耳で読書を楽しむことができる。また、拡大・縮小もできるので、目が悪い方も読みやすいといったメリットがある。こういった機能を活かして、高齢者にも利用を広げていきたい。

委員：街中のスマホ教室のような感じで、各コミュニティセンターで、電子図書館の使い方講座のようなものを開催したらどうか。また、先ほど説明のあったリサイクル市も、中央公園の利用者に見えるように、屋外にリサイクル本の入ったワゴンを置けば、図書館に誘導できるのではないかと思う。

事務局：貴重なご意見をいただき有難い。いただいたご意見を参考にさせていただきたい。

委員：予算が対前年比でいうと約96%で4%の減となっているが、図書購入費に関しては200万円の増額となっている。代わりに他の予算が削られたということはないのか。

事務局：先ほど説明したとおり、施設管理のところで、駐車場整理等業務に係る委託料が減額となっている。また、施設改修工事において、令和3年度に実施したLED改修工事と令和4年度に実施する外部改修工事の工事費に差額が生じており、トータルで対前年度から4%減となったものである。

委員：図書館の駐車場が有料化されるが、駐車料金は図書館の収入にならないのか。

事務局：指定管理者が図書館駐車場を含めた公園全体を管理することとなり、駐車料金については指定管理者の収入となる。

委員：駐車場が有料になった場合、客足に影響が出ると思われるか。

事務局：無料時間である1時間以内で利用される方にはあまり影響はないと考えるが、長時間利用される方にとっては、やはり影響があるのではないかと懸念される場所である。

委員：高齢者でも時間も体力もある方は多い。他に趣味がある人はいいが、車でちょっと図書館に行ってくるといった人も多いのではないかと思う。駐車場の有料化によって、その人たちが敬遠するかもしれないといった懸念もあるので、今後の人の流れをよく観察しておく必要があると考える。

会長：他になければこれで質疑をとどめる。

③令和3年度の事業実施状況について

《 説明 》

～事務局から資料に基づき、前回（11/18（木））の図書館協議会開催日以降の事業実施状況について報告を行った。～

★講座・イベント

年月	項目	状況等	コロナ関連状況
11月	★「国際交流員による韓国文化講座」開催	11/21(日)開催。館内展示と連携した本市の国際交流員(韓国)による異文化理解講座。11名参加。	感染レベル1
12月	★子ども向けイベント「みつけて！クリスマス」	12/18(土)、19(日)開催。児童室内に貼り付けたキャラクターやイラストを探す。正解者にはプレゼントを配付(各日先着30名)。延べ136名参加。	感染レベル1 12/7(火) 佐世保市独自の感染レベルを廃止し、県の感染レベルを用いる。
令和4年 1月	・コロナ感染症対策によるサービス縮小(1/18(火)～) ・コロナ感染症対策によるサービス縮小(1/21(金)～2/13(日))	長時間の滞在をご遠慮いただき、レファレンスサービスを30分以内とする。3階・4階の立ち入り禁止。会議室利用禁止。レファレンス(調べもの相談)、インターネット利用、DVD・CDの視聴、座席利用の中止。滞在時間の短縮(30分程度)のお願い。移動図書館「はまゆう号」の車内利用を禁止し、予約本の貸出のみを行う。	1/18(火)～ 感染レベル 2-Ⅱ 1/21(金)～2/13(日) 国の「まん延防止等重点措置地域」に指定
2月	・コロナ感染症対策によるサービス縮小の期間延長(1/21(金)～3/6(日))	3階・4階の立ち入り禁止。会議室利用禁止。レファレンス(調べもの相談)、インターネット利用、DVD・CDの視聴、座席利用の中止。滞在時間の短縮(30分程度)のお願い。移動図書館「はまゆう号」の車内利用を禁止し、予約本の貸出のみを行う。	2/10(木) 国の「まん延防止等重点措置地域」に指定期間の延長(～3/6(日)) ※2/19(土)開催予定の「郷土研究所定例会」中止 ※2/23(水祝)開催予定の「ビブリアバトル上映会」延期
3月	・コロナ感染症対策によるサービス縮小の期間延長(3/6(日)～佐世保市の感染状況が県	3階・4階の立ち入り禁止。会議室利用禁止。レファレンス(調べもの相談)、インターネット利用、DVD・CDの視聴、	3/6(日) 国の「まん延防止等重点措置地域」の適用

	<p>レベル2ーⅡ以下に引き下げされるまでを目安に当分の間)</p> <p>★「オンライン読み語り講座」開催</p>	<p>座席利用の中止。滞在時間の短縮(30分程度)のお願い。移動図書館「はまゆう号」の車内利用を禁止し、予約本の貸出のみを行う。</p> <p>3/19(土)開催。絵本の選び方や読み方に関する講座。講師は本館職員(司書)。オンラインと会場の同時開催。会場は図書館3階視聴覚室での動画視聴。定員:オンライン20名 会場24名</p>	<p>解除。ただし、佐世保市は県レベル3相当(県全体では2ーⅡ)</p>
--	--	---	--------------------------------------

《 質 疑 》

会長：ただいまの説明に対し質問・意見等があればお願いしたい。

委員：コロナ禍で、オンラインでのやりとりが普及し、学校においても校内で一斉に集まったの集会が難しいので、オンラインで教室間をつないで行っているところであるが、接続等で不具合が発生している。図書館の場合はどうか。

事務局：事前に接続テストを行っているので、今のところイベントなどの中断等は発生していない。

委員：コロナの感染レベルについては、その都度どこかに問い合わせているのか。

事務局：市のコロナ対策本部の決定に従うかたちとなる。

委員：コロナ禍のなかで、これだけのスケジュールをこなしていくのは大変なことだと思う。限られた職員、スタッフで、コロナの感染レベルが変わるごとに対応を変えていく必要があるので、ご苦労なことだと思う。

委員：司書さんが忙しいのはわかっているが、いつも厳しい顔をされているので、もう少し笑顔があってもいいと思う。

委員：それは私も感じていた。

事務局：コロナ禍でマスクを着用しており表情が見えにくいといったこともあるが、改めて、職員、スタッフに伝え、温かい雰囲気でお迎えしたいと思う。

委員：以前、前委員がいらっしゃったときに話をした件であるが、佐世保市の学校の校歌の音源を図書館で保存して欲しいと思う。学校の入学式、始業式、終業式のときなどに録音をお願いすれば、比較的容易に音源が集まると思う。活字だけではなく、そういったところもライブラリーとして残していくべきではないかと思う。歌詞については、郷土資料室の資料としてあるが、音源はなく、楽譜もあまりない。時々探しに来られる方もいらっしゃるので、あればよいのではないかと思う。

委員：コロナ禍で、校歌を歌っていない学校が結構あると思う。前委員もやりたかったが、そういった事情でできなかったのではないかと思う。

委員：学校の統廃合で、小学校がなくなってしまう、例えば烏帽子分校はどんな歌だったのだろうといったことがあるので、何かの機会があれば、取り組んで欲しいと思う。

会長：他にないか。

委員：来年の図書館カレンダーで2月末から3月初めにかけて蔵書点検期間を設けているが、この期間で対応できるのか。

事務局：大変な作業にはなる。

委員：蔵書数が多いので、今年是在架、来年は閉架といったように、作業エリアを分けていかないと、

この日程では大変な作業になると思う。また、棚を掃除するなど単純な作業であれば、図書ボランティアさんをお願いしてもいいのではないかと。

事務局：過去には蔵書点検のボランティアさんもいらっしやったので、興味がある方がいらっしやれば、お願いできるよう検討したい。

委員：図書館として、独自性のある色合いを出すのはなかなか難しい。図書館の上に教育委員会や市長部局もあるので。例えば、その時々々の社会情勢に合った格言や昔の言葉などを図書館で展示するようなことをすれば、図書館らしさが出て良いのではないかと思う。今、ウクライナで戦争が起こっている。論語に、「学びて思わざればくらし。思いて学ばざればあやうし。」といった言葉があるが、これは、学んでも自分で考えようとしなければ力をつかない。また、思っても、学ぼうとしないなら、考え方が偏るので危険このうえないという意味で、このような戦争のなかで、私たちがロシアやウクライナをどのように見ればよいのかといったことを考えさせてくれる言葉ではないかと思う。

プレートにして展示しても良いし、本のしおりを作成してそこに書くなど、いろいろ工夫されてはいかかかと思う。

会長：他にないか。

委員：ここの図書館では、貸出時にレシートを出して本と一緒に渡してくれる。図書館によっては、経費節減のためレシートを出さないところもあり、忘れないように自分で記憶しておく必要がある。レシートを出してくれるのは大変有難いことだと思っている。

会長：他になければこれで質疑をとどめる。

④その他

イ) 報告事項 令和4年3月定例市議会の一般質問（個人質問）について

《 説 明 》

～事務局から当日配付資料に基づき、報告を行った。～

1.質問者：自民党市民会議 鶴大地 市議会議員

2.質問日：令和4年3月16日（水）

3.答弁者：西本教育長

4.質問項目 「これからの図書館の在り方について」

5.質問・答弁要旨

（質問要旨）

近年のコロナ禍やDX推進の推進により、図書館をとりまく社会背景は大きく変化している。図書館が懸命に努力されているのは評価するが、直近（R4.3.1）の佐世保市立図書館の利用登録者数は28,782人であり、佐世保市の人口の12%に過ぎない。残り88%は図書館の未利用者であり、この低い利用率は、ターゲットの狭さが原因と考えられる。また、図書館のクローズドな運営環境（行政内・他団体との連携の少なさ）と調査力・発信力不足（ターゲット設定の狭さ）も課題であるとする。

これらの課題を解決するため、4つの施策を提案するので、教育長の見解を伺う。

①利用率向上とターゲット拡大

図書館が現在取り組んでいるイベントは、図書館が好きな方向けになっているのではないかと。間口を広げるため、「本を感じさせないイベント」が必要ではないか。

また、令和4年4月1日から中央公園がリニューアルオープンし、新たに人の流れが生まれるので、これを取り込むため、中央公園との連携が必要ではないか。

②庁内や他団体との連携強化

- ・市事業と関連本棚の発信活用
- ・「SASEBO未来デザイン会議」の開催場所の提供
- ・図書館版ユーザーマッチングサービスのような取り組み

③発信力強化と組織強化

- ・庁内発信力の強化
- ・SNS対策
- ・アウトリーチ活動の推進

④図書館の再定義と「図書館運営方針」の見直し

新定義「図書館 3.0」

1.0→帝国図書館開設から公共図書館普及まで

2.0→デジタル化やPFI、コミュニティ化

3.0→コロナを乗り越え「知の拠点」を超えた「成功の拠点」としての新定義

→「成功の拠点」その礎として「知」や「人」「学び」があり、それぞれの成功がまちづくりへと昇華する。

これを実現するべく、「図書館運営方針」の見直しを行ってはどうか。

(答弁要旨)

①利用率向上とターゲット拡大

- ・子ども向けのイベントとして、消防局と連携し、消防車、救急車の見学・乗車体験を行い、乗り物の本などを紹介することで利用登録につなげてまいりたい。
- ・移動図書館「はまゆう号」を九十九島観光公園等に出張させ、公園で読書をしてもらうなどの取り組みも行いたい。
- ・この他、市民ギャラリーコーナーを活用して、佐世保の軍港の歴史に関する展示にあわせて、艦船の模型や、アニメの「艦隊コレクション」などの展示を行うと、SNS上での拡散も期待できる。郷土資料室には多数の海軍関係の資料があるので、利用につながるのではないかと考える。

《中央公園との連携について》

- ・「図書館まつり」のスタンプラリーなどのコラボ企画や、屋内遊び場へのリサイクル本の本棚の設置、同施設内の子育て情報発信スペースでの図書館のイベントの広報、芝生広場での本を使ったイベント、移動図書館「はまゆう号」による出張サービスなど、公園の指定管理者等と連携して、図書館の魅力向上のための企画を展開してまいりたい。

②庁内や他団体との連携強化

- ・本棚を活用した情報発信として、本棚のレイアウトを工夫し、本の隣に関連する資料の展示も行いたい。
- ・令和4年度には、市制120周年プロジェクト「SASEBO未来デザイン会議」を実施するので、図書館で開催するようにしたい。

③発信力強化と組織強化

- ・行政課題の解決を支援する場として、庁内に向けた発信力の強化に努めてまいりたい。
- ・SNS等を活用した情報発信については、フェイスブックに加え、新たにツイッターを開始し、積極的に努めてまいりたい。
- ・地域のサービス拠点であるコミュニティセンター図書室と連携したサービスも行っているので、更なる活用の促進を図ってまいりたい。

④図書館の再定義と「図書館運営方針」の見直し

・読書には、自分で考え、自立できるひとを育むといった効果も期待でき、「ひとづくり」は「まちづくり」にもつながると考えているので、議員ご提案の趣旨も踏まえ、図書館の基本的な運営の方向性を定めた「佐世保市立図書館運営方針」の見直しを行いたい。

《 質 疑 》

会長：ただいまの説明に対し質問・意見等があればお願いしたい。

委員：ニーズの把握については、やはり必要であると感じる。「本を感じさせないイベント」という凄いキーワードが出てきたが、私の知るところでは、東京に日比谷図書文化館というところがあるが、ここではビジネスに関するいろいろな講演会など、結構面白い取り組みをされており、本を感じさせないイベントに合致するのではないかと思う。

委員：ハウステンボスでは、「バラ祭り」や「光の王国」など、テーマをもって取り組んでいる。例えば、料理やアニメなどは、幅広い年齢層に期待ができるので、アニメ「鬼滅の刃」をテーマとして、関連する本の紹介をしてみてもどうか。また、九十九島などの自然・観光に関連したテーマや、村上龍さんなど本市ゆかりの著名な作家をテーマとして仕掛けてみるのもよいのではないかと思う。

委員：過去に、動物園とコラボしたことがあって、象のうんちの乾いたものを児童室に展示して、園長さんが、子どもたちに、臭くもなく、汚くもないといったことを話されて、子どもたちにも大変受けていた。動植物園や水族館とコラボしても面白いのではないかと思う。

事務局：いろいろとご意見を頂戴し有難い。今後の取り組みの参考とさせていただきたい。

委員：私の住んでいる地域でも、図書館の場所を知らない、図書館に行って何をすればよいのかかわからないといった人は結構いる。そういった状況を、図書館単独の力で変えていくには限界があると思う。市の他部局と連携して、期間限定でもいいので、総ぐるみで図書館のPRをやらないと、今後ますます来館者が減るおそれがある。民間企業や市民の方の力も借りて、やってみてはどうか。

委員：利用登録者数は、早岐・相浦などの図書室も含めた数となるのか。

事務局：そうである。

委員：本と人間の関係は、鍵と鍵穴の関係に似ていて、自分に合った本にはなかなか巡り合うことができない。それをするには、たくさんの本を手にとってみる必要があるが、書店で買うとお金がかかる。しかし、図書館であれば無料で、しかも、窓口で相談すれば司書の方が探してくれる。そののところをもっとアピールしてはどうか。ただ本が置いてある場所というだけでは、なかなか図書館に行こうとは思わないのではないだろうか。

幼児図書は絵が多くて文字が少ない。対象年齢が上がるにつれて、文字が増えていく。そうやって本の世界に引き込んでいく。だから、中学生になっていきなり本を読めといわれても無理がある。小さい頃から、本の世界にじわじわ入っていった経験がないと、特に今の時代は本以外の情報が溢れているので、難しいのではないかと思う。図書館だけでなく、学校や家庭も一緒になって子どもたちの読書環境を育てていく必要があると思う。

スマートフォンやパソコンがこれだけ普及すると、子どもたちの想像力がどんどん落ちていき、他人を思いやる気持ちが減っている感じがする。読書は感受性を育ててくれる。前向きに検討していただきたい。

委員：コロナ禍の前は、児童室でのおはなし会の後に育児相談会をやっていた。今後、復活したときには、本を感じさせないイベントのひとつとして、赤ちゃんの沐浴講座や乳幼児の離乳食講座な

どを図書館で開催し、その場で関連する本の紹介をすれば借りて帰られるかもしれない。あと、アウトリーチ活動のひとつとして、アニメの聖地巡礼のようなイベントをやってみる。例えば、「坂道のアポロン」をテーマとして、この辺りの建物の写真は図書館に行けばありますと誘引する。また、作家の佐藤正午さんのベストセラー本「鳩の撃退法」が映画化されたが、風景がなんとなく佐世保と似ているので、映画のこのシーンのこの場所は、佐世保の日宇駅に似てませんか、などといった企画をやって、本に結びつけるような仕掛けをしてみる。ブックリストを渡して、お目当ての場所に行ってもらって、いつか図書館に来てみてくださいといったようなことを重ねていくと、広がっていくのではないかと思う。

委員：島瀬美術センターとの連携はどうなっているのか。距離も近いし、同じ社会教育施設なので。例えば、今、美術センターでは平戸のお殿様のもちもの展を開催しているが、そういったときに関連書籍は図書館のここにあるといったことをPRすれば、双方で誘引できるのではないかと思う。

もう1点、小学生や中学生に、図書館啓発などのポスターをデザインしてもらうようなコンテストを行い、優勝作品は図書館の市民ギャラリーコーナーに展示するなどの企画も面白いのではないか。

事務局：島瀬美術センターとは、お互い連携して、向こうで展示をしたときは図書館で関連本の紹介などを行っていきたいとの話をしている。また、子どもたちにポスターを描いてもらって、いろんな発想のポスターができて、面白いと思う。学校と協議して、できる範囲で実施していきたいと思う。

委員：私はアルカスSASEBOで音楽会をするときがあるが、そのような機会を捉えて、ロコミで図書館のことをアナウンスしていきたい。文字で広めるのもいいが、ロコミも大切だと思う。

委員：家庭のなかに、専門書以外に本が何冊あるか。若い人に聞くと、ほとんどゼロ冊に近い人が多い。社会人になったらほとんど読まない。先ほども述べたが、幼児から小学生までは非常に大切な時期。学校の先生たちも、気を配っていただき、本を紹介し、図書館をすすめて欲しい。

会長：他になければこれで質疑をとどめる。事務局から何かあるか。

事務局：冒頭申し上げた運営方針については、コロナ前に作ったものであり、指標の見直し等もあるので、今回の3月定例会市議会での個人質問の趣旨も踏まえて、見直しを行いたいと考えている。その際は、委員の皆様にお諮りしたいと考えているので、よろしく願います。

ロ) 次回開催日について

令和4年度の第1回の開催については、10月から11月頃を予定している。日程については事務局で連絡調整を行い、決定する。

(6) 閉会

以 上